

江戸時代の庶民生活の諸相を貴重な版本（影印）で見せる一大叢書
収録分野・領域（ジャンル）がさらに多彩な広がりを見せる〈第2期〉

江戸時代庶民文庫 〈第2期〉

解題 小泉吉永（こいずみ よしなが）
〈往来物研究家〉

〈第2期〉第1回配本

*各巻
分売可

全5巻（第61～65巻） * 2018年6月刊

巻【ジャンル】（収録資料点数）	頁	ISBN	本体価格（税別）
61巻【園芸・飼育】（4点）	320頁	978-4-86688-061-7	14,500円
62巻【科学（化学・物理・理学）】（4点）	450頁	978-4-86688-062-4	19,500円
63巻【食養生】（2点）	380頁	978-4-86688-063-1	16,200円
64巻【料理・近代家政】（4点）	350頁	978-4-86688-064-8	14,500円
65巻【絵画（入門書）】（1点）	310頁	978-4-86688-065-5	13,300円
全5巻揃（61～65巻） 総約1810頁 978-4-86688-101-0 78,000円			

〔体裁〕A5判・上製・クロス装



特色

- ◆稀覯・新発見資料を多載
- ◇挿画・図版が豊富な史料を多載
- ◆鮮明印刷の版本「影印版」

【第2期収録予定のジャンルより】（予定）

紀行 物産 旅行・交通 学問語録（漢学） 語源辞書 歌謡（端唄・都々逸・大津絵節） 笑話・小咄 絵本（文芸＝狂歌・川柳） 戯文 故事・俗説 茶道書道 仏教（般若心経） 祭祀（葬祭） 天文気象 災異（地震・救荒） 測量 本草・植物 暦 医学（救急・看護他） 医学・養生 商業（道徳） 商業（名鑑他） 建築・大工 農業 農村経営（地方） 伝記（人名辞典） キリスト教（排斥） 神道 画譜…他

* 第2期収録資料約180点、総16,000ページ以上（予定）

* 全8回配本（年2回・各5巻収録、完結2021年11月予定）

〈第1期〉好評発売中！

全60巻・別巻1 全8回配本（2012～2016）

*詳細案内進呈

（ご請求下記へ。ホームページでもご覧になれます）

「江戸庶民」の生活を知る
江戸時代庶民文庫 別巻「解題・索引」

全60巻を
縦横無尽に
駆け巡る！

A5判・上製・660頁 978-4-908926-02-0 28,000円（税別）

学術資料出版

大空社出版

©OZORASHASHUPPAN 2018

東京都北区中十条4-3-2（〒114-0032）
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
www.ozorasha.co.jp / eigyo@ozorasha.co.jp

・お取扱
い

新たな江戸時代の魅力を発見する一大叢書

江戸時代庶民文庫

〈第2期（61～100巻）〉刊行開始

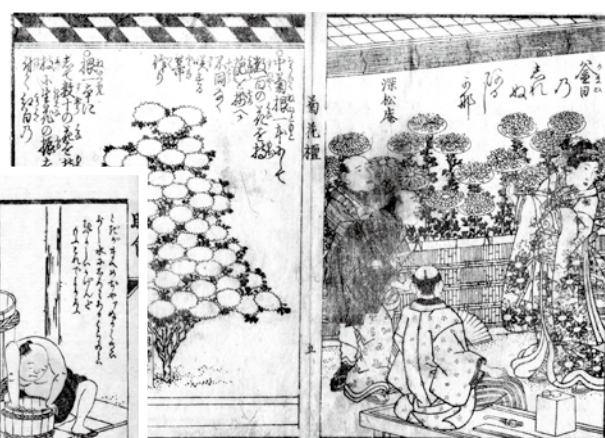
さらに時代の奥へ
さらに深く

〈第2期〉 第1回配本 （第61～65巻）

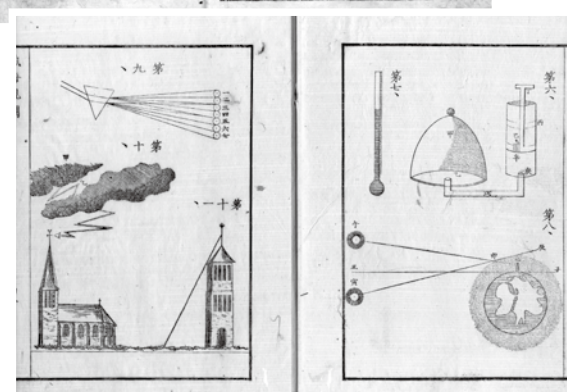
* 2018年6月刊

江戸庶民の

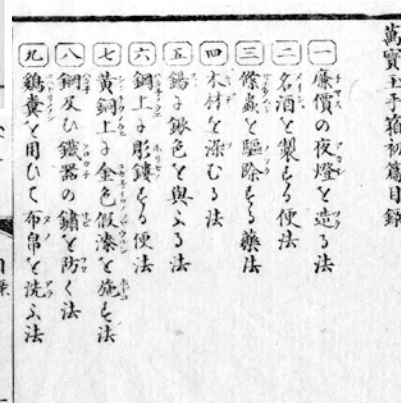
生活が見えてくる
人の息遣いが
伝わってくる



心に分け入る…



（図版・右上より）
菊花壇養種（61巻）
寛の賑ひ（64巻）
気海観瀾（62巻）
万宝玉手箱（64巻）



学術資料出版

大空社出版

江戸時代の生活分野に関するあらゆる研究に有益この上なし！

教育・民衆・女性・生活・社会・風俗・芸能・医学・経済・宗教・絵画・出版…の歴史・美術・イラスト・デザインの素材…

江戸時代の魅力 さらに広がる

『江戸時代庶民文庫 第2期 刊行にあたって』

今日「江戸時代」への関心、注視の度合いは高まるばかりです。江戸時代には、庶民教育の普及による識字率の向上、また、印刷技術の進歩や出版活動の隆盛に伴う書籍の流通、そしてそれらを可能にした全国的な交通網の整備、流通の拡大、社会経済の発展などにより、庶民階級が台頭し、それまでの公家・僧侶・武家文化と異なる独自の文化が展開しました。庶民の「俗」文化が上流社会の「雅」文化を取りこみながらダイナミックに発展していった江戸時代に、現代に続く日本の伝統文化の大半が形成されたと言えましょう。

『江戸時代庶民文庫』は、当代庶民の生きる知恵と技術、生活の実相を知る基本的かつ貴重な史料を影印集録する叢書として全60巻・別巻1が刊行され（2012～16）幸いにも江湖に好評裡に迎えられました。しかし、見るべき残すべき価値があり「発見」が待たれている分野や資料は汲み尽せないほどあります。ここに第二期（第61～100巻）を継続発刊し、本文庫が江戸時代史料の一層充実した宝庫として広く活用されることを願っています。

大空社出版

第61巻【園芸・飼育】（収録4点）

菊花壇養種（きくかだんようしゅ） 菅井菊叟作。池田英泉（溪斎英泉・池田義信・善次郎・一筆庵可候・楓川市隠）画・序。弘化3年（1846）春、一筆庵序。弘化3年春、玉英舎主人跋・刊。「江戸」和泉屋市兵衛（甘泉堂）板。／菊花の栽培法を豊富な図解とともに記した園芸書。珍花・奇妙と言われる菊花は「栽培の手入の巧」が決め手（序）、その秘訣として培養、如露、風雨の手当、虫除等を記す。

金魚養玩草（きんぎょようがんそう） 安達喜之作・序。奚疑斎増補。寛延元年（1780）9月自序江戸後期刊。「大阪」河内屋木兵衛板。／出版された金魚飼育書の嚆矢。日本における金魚の故事から執筆の経緯に触れた「金魚のものがたり」等。

厩馬新論（きうばしんろん） 竜山堂主人作・跋。藤原隣春（福島隣春・雨廼屋・花所）画。卓牧子補注。文化三年（1806）6月自跋。嘉永6年（1803）8月、無辺散人（黙翁）序。嘉永7年初刊（沢善居板）。安政元年（1828）12月再刊。「江戸」和泉屋金右衛門板。／获生徂徠の「鈴録」を参照し、多く林子平作「海国兵談」を援用しながら、己の体験・見聞や故事に基づく自説も交え、特に、馬術に志ある「小禄窮士」の者が馬を飼う秘訣を述べた書。

「諸鳥飼養」百千鳥（しよもとり） 泉花堂三蝶作・序。寛政11年（1796）10月自序・刊。刊行者不明。／飼い鳥の餌の製法や餌の与え方、飼い鳥の養生や治療など飼育全般を述べた書。たとえば餌の製法について、米の粉拵え様、摺餅青味、水を飼うと飼わざる、爪切り様、箆仕立て、羽変わりの事など27項目。

金魚養玩草(61巻)

第62巻【科学（化学・物理・理学）】（収録4点）

舍密局必携（前篇）（せみつきょくひつぺいぜんぺん） 上野彦馬（季溪）抄訳。堀江公肅（鉄次郎・忠雍・松澤）校・序。文久2年（1862）1月刊記。文久2年9月、堀江雍（公肅）序・刊。文潮堂藏板。「津」伊勢屋治兵衛ほか売出。／化学実験を効率的に行うために、西洋の諸文献に基づき主要元素の「稟性・親和力・異重力・効用、其他各材ノ成分・配合・分量等」を抄訳して図解を施した化学入門書。「舍密」は蘭語 chemie の訳語（化学の意）。当時最先端の科学史の一資料。

硝石製造辨・作焰硝製造方（しょうせきせいぞうへん・さくえんしょうせいぞうほう） 佐藤信淵（椿園・元海・百祐）作。嘉永7年（1805）2月、奎文老人序。嘉永7年7月刊。「江戸」和泉屋半兵衛板。／火薬の原料・硝石製造法の技術書。住居の床下から掘り起こした土から硝酸カリウムを析出して硝石を製造する「古土法」と、藁・草・木の葉に石灰や糞尿をかき混ぜた土を硝石小屋に積み上げ、定期的に糞尿をかけて四、五年経過した後には硝酸カリウムを抽出する「硝石丘法」の二つを多くの図解を交えて解説。

気海観瀾（きかいかんらん） 青地林宗（青地盈・芳潜）作。篠田忠元（順）校。文政8年（1826）12月、著者凡例。文政10年7月、桂川甫賢（国寧・桂嶼・清遠）序・刊。芳潜園（著者）藏板。「江戸」和泉屋吉兵衛（名山閣）売出。／日本で初めて刊行された本格的な物理学・気象学書。著者が翻訳した蘭書「格物総凡」（J. Buys, Natuurkundig Schoolboek（物理学教科書）（1798）から「気性」関連を抜粋・編集。体性、引力、気重、窒気、燃気、光、色、音、風、越列吉的爾（エレキテル）質、気化、虹、暈、潮汐など全40項目。

慈石論（じしろん） 石井磯岳（光致・磯岳亭）作。文政10年（1828）10月作・刊。著者藏板。「江戸」千鐘房（須原屋茂兵衛）売出。／中国の文献等によりながら磁石に関する知見や故事をまとめ、その起原を考察した、磁石に関する本邦最初の文献。鉄と相性が良い磁石が太陽が盛んな南方を向くという原理を応用した方位磁針等。

慈石論(62巻)

第63巻【食養生】（収録2点）

撰生談（せんせいだん） 近藤隆昌（近藤明・泉海・文溪）作。文化12年（1816）10月序。同年月、近藤隆二凡例・跋・刊。「大阪」聞喜堂ほか藏板。本書以前の数多くの養生書の中から「食療（食養生）」に関する事柄を選んだもの。全三巻、本文全て仮名交じり文。「進養生説三章」「脾胃調養法十八条」。

食療正要（しょくりょうよう） 松岡玄達（恕庵・成章・怡顔斎）作。松岡典（定庵・子勅）校。明和5年（1768）3月、膝惟黄（浅井図南）序。明和6年1月、中山玄亨（蘭渚）跋。明和6年9月刊。「大阪」柳原喜兵衛ほか板。／食養生（食療）を説いた医学書。全13部367項の食品について異名、外見その他の特徴、気味（味覚や毒性の有無）、主治（効能）、禁忌などを詳しく記す。

第64巻【料理・近代家政】（収録4点）

西洋衣食住（せいよういしょくじゅう）（2種） 片山淳之介（福沢諭吉）作・序。慶応3年（1867）12月序・刊。「江戸」慶應義塾板。／図解で紹介（三部構成）。「衣之部」は、多くが男性用衣服で、用途・形状・素材、また着用・装飾の心得等にも言及。「食之部」は、最小限の食事マナーや饗応時の酒についても触れる。「住之部」は、西洋人の身嗜みや、室内の土足やベッドでの就寝など日本とは異なる生活習慣について述べ、末尾に、十二時法と西洋時計の見方を説明。

万宝玉手箱（初篇）（ばんぼうぎょてすば） 杉田成卿（杉田信・梅里）編訳・序。安政5年1月自序。安政5年2月作・刊。「江戸」天真楼藏板。「江戸」山城屋佐兵衛ほか売出。／海外の著作の中から生活に役立つ「簡便利用の方法」を集め、雑多な備忘録を加えた。西洋の科学的知識を活用した生活上の工夫が目立つ。

「日用助食」竈の賑ひ（電賑）（にちようしよくすいのかまのにぎわい） 大蔵永常編。江戸後期刊。「江戸」石井佐太郎ほか板。／主として都会でその日暮らしをする人々に対して、飢饉時の救荒食、特に米や雑穀や野菜を混ぜた「かて飯」を主とする救荒食の作り方や効能その他の関連知識を紹介した書。

「料理調業」四季献立集（しよきこんだてしゆしゅう） 秋山子編・序。天保7年4月序・刊。「名古屋」永楽屋東四郎ほか板。／初心者にも分かりやすく四季料理の献立と調理法を解説した料理書。二汁五菜、繪之部、酢之部、四季附近之部、平之部、四季鉢肴、井物之部など、調理法や諸注意を箇条書きで簡潔に記す。

西洋衣食住(64巻)

第65巻【絵画（入門書）】（収録1点）

画筌（がせ） 林守篤（魯軒）編・序。正徳2年1月自序。享保6年7月、平住専安序。享保6年6月刊。「大阪」河内屋吉兵衛ほか板。／絵画入門書。狩野派秘伝の暴露本となったが、絵を独学しようとする者には、理論と実技の解説、図様の実例などが懇切に用意された便利なハウ・ツー本として、大いに歓迎され、版を重ねた。

画筌(65巻)

食療正要(63巻)

撰生談(63巻)

硝石製造辨(62巻)

百千鳥(61巻)

厩馬新論(61巻)